

# 環境アセス公聴会

公述人：山野 徹（熊本市）

2024年3月5日  
八代市D2会場

# 1. 川辺川の流水型ダム建設は法的な根拠に基づいて計画をやり直すこと。

川辺川の流水型ダムは継続事業であり、環境影響評価法の施工前に着工しているから環境アセスメントの対象外だとしている。

川辺川ダムの基本計画では、目的が貯留型ダムのまま。つまり特定多目的ダム法に基づいている。

流水型ダムにするためには、多目的ダムである川辺川ダム計画を廃止し、新たに河川法に基づく計画を作成しなければならない。

従って、

**環境アセスも法に基づき実施しなければならない。**

## 2. 球磨川豪雨の検証をやり直すこと。

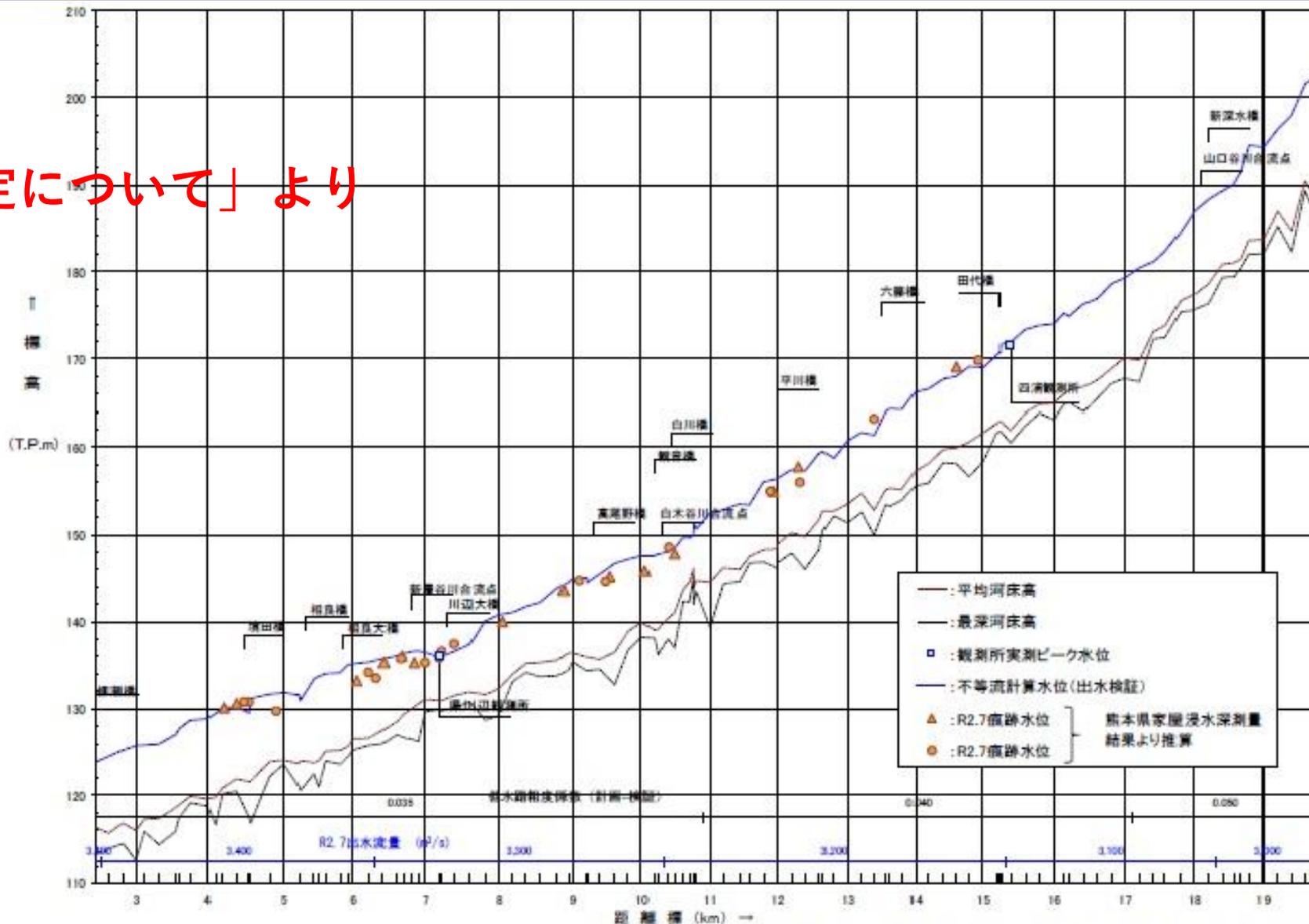
①ダム建設予定地の豪雨発生当時の水位痕跡を確認していない。

○不等流計算結果(水位縦断面図)で、痕跡水位を概ね再現できている。

2020.10.20

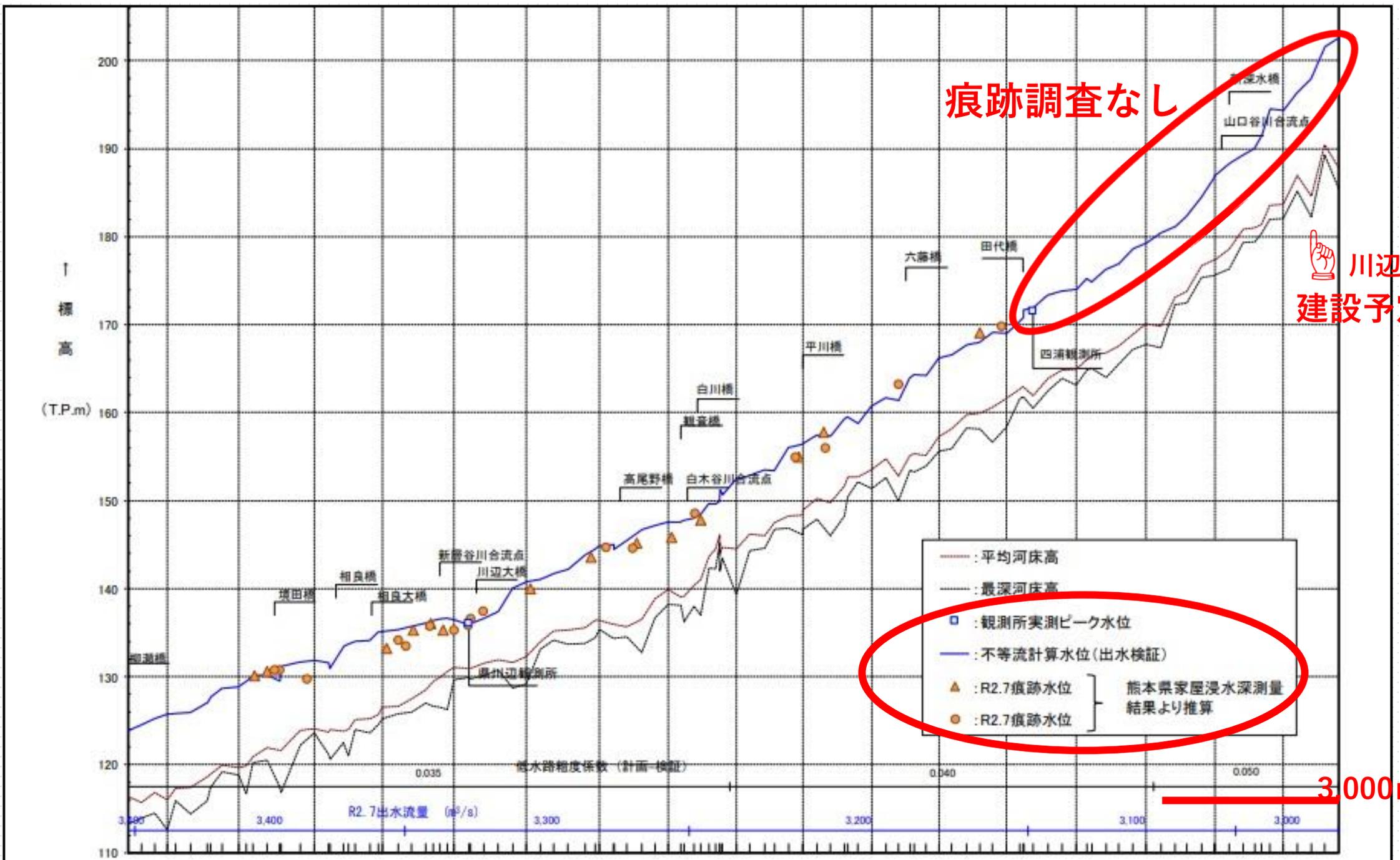
国交省資料

「流量の推定について」より



※本資料の数値は「暫定値」であり、今後変更の可能性がある。

※不等流計算は200m毎に断面設定しており、有効断面の急拡・急縮の影響で痕跡と水位に差が生じることがある



②ダム予定地で $3,000\text{m}^3/\text{s}$ の流量が有ったとしているが、あり得ない。

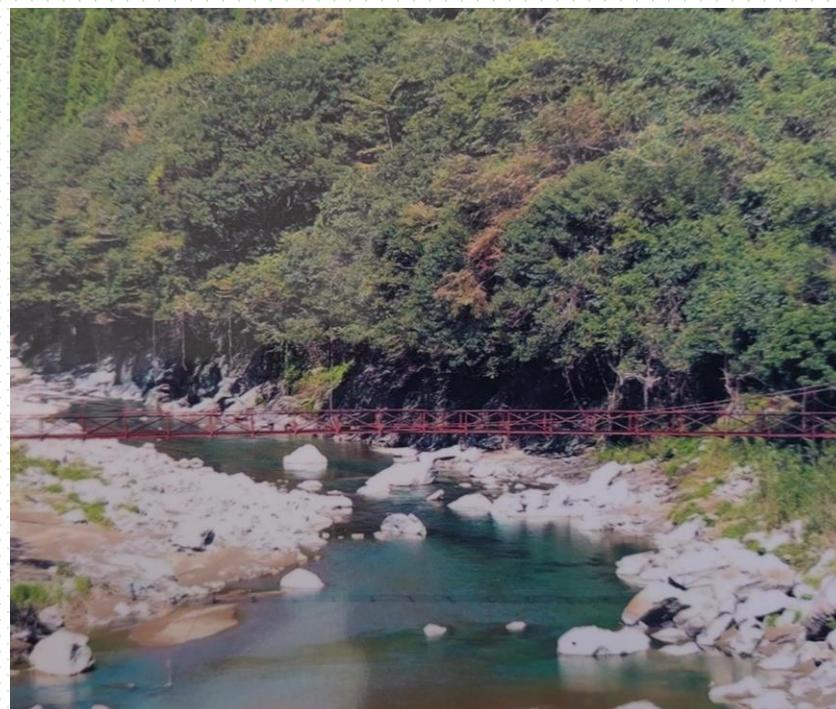
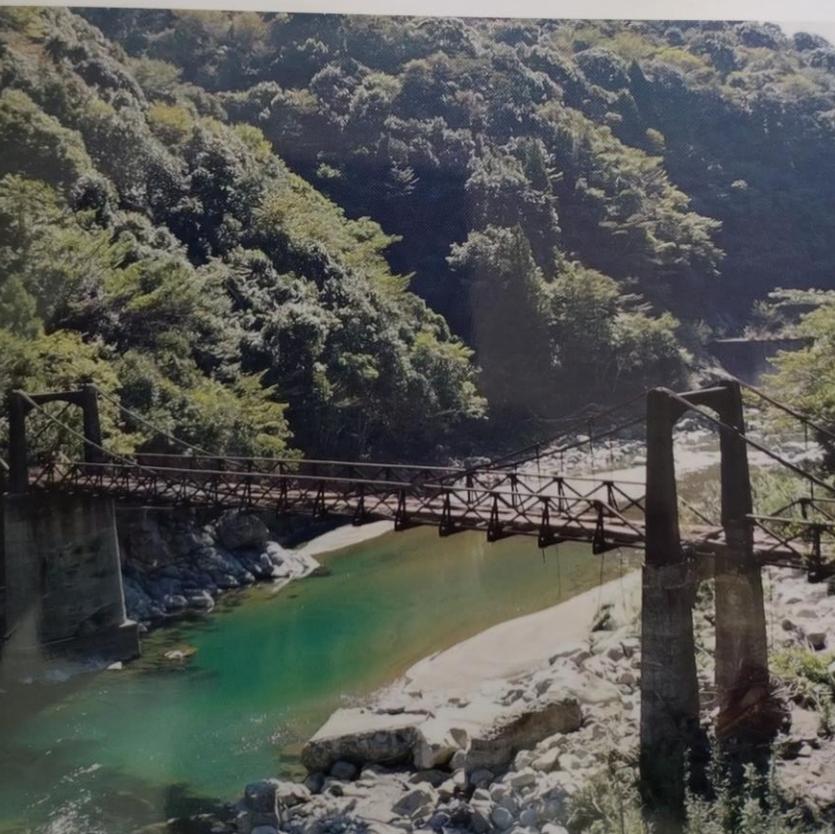
ダム予定地の吊り橋が無傷で残っているのが何よりの証拠。

地元住民が確認した水位の痕跡は、つり橋の下2mの位置だった。

# 奇跡の二つの吊り橋

あなたは『穴あき川辺川ダム』が欲しいですか？

岐部明廣 編著



$$40\text{m} * 6\text{m} * 5\text{m/s} \\ = 1,200\text{m}^3/\text{s}$$

$$50\text{m} * 6\text{m} * 5\text{m/s} \\ = 1,500\text{m}^3/\text{s}$$

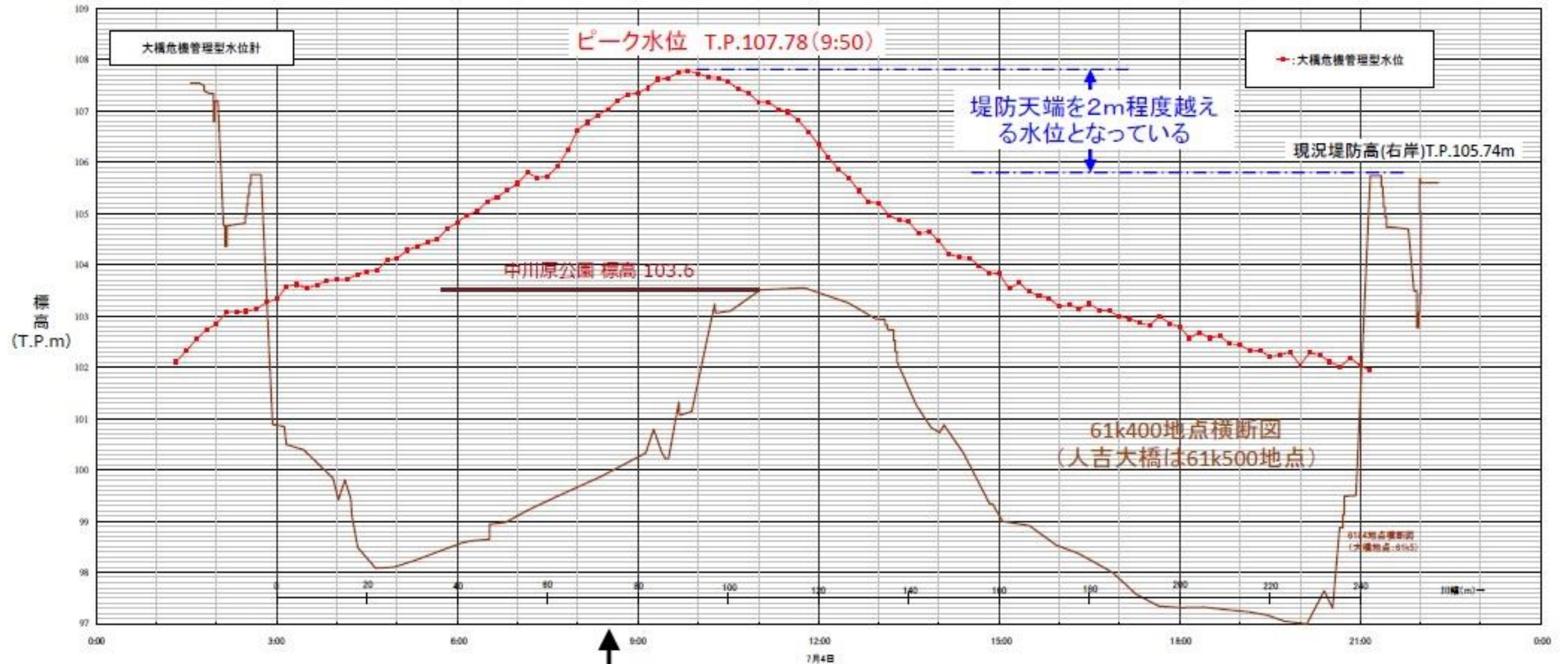


川辺川ダムが在ったら人吉の被害を6割減少する事が出来たというのは、事実に基づかないデータによって作り上げられたまやかしである。ダム建設の話は、このまやかしから始まっている。

③人吉地点の水位計測が出来て  
いなかった可能性が有る。

人吉大橋の危機管理型水位計が、  
豪雨のピーク時水没していたとい  
う地元の方の目撃証言がある。

# しかしなぜか計測出来ている。



※人吉水位観測所は、7月4日午前8時30分以降「欠測」

④球磨川第四橋梁が流木等で閉塞しダム化した後決壊し大洪水を発生させた（地元住民の目撃情報）。

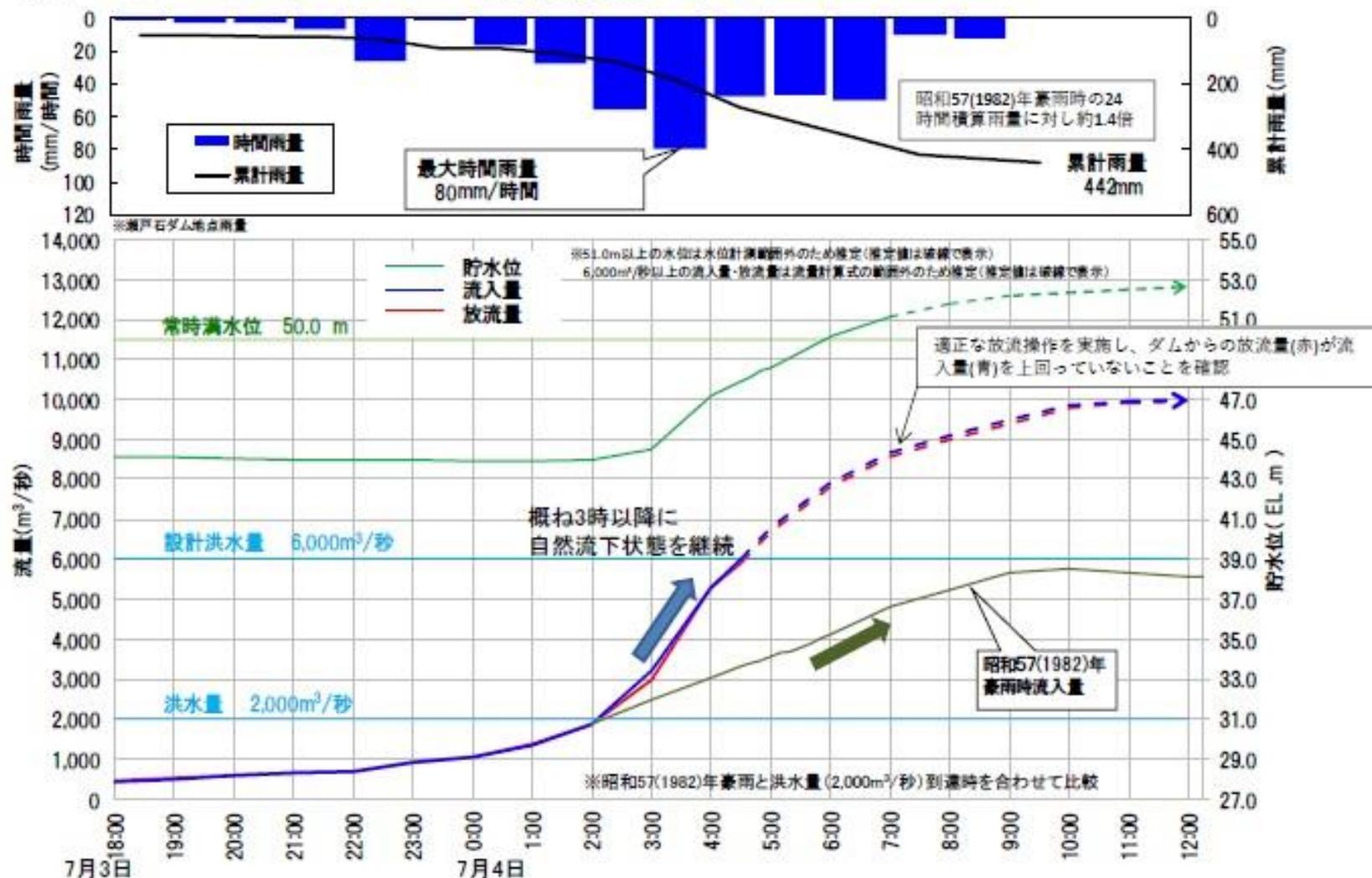
人吉地点では、少なくとも水位のピークが2度以上発生しているはずが、国交省のグラフのピークは一つだけしかない。

⑤中流域の瀬戸石ダムが引き起こした災害の検証がされていない。

電源開発（株）は放流量が流入量と同じで自然放流状態と主張。

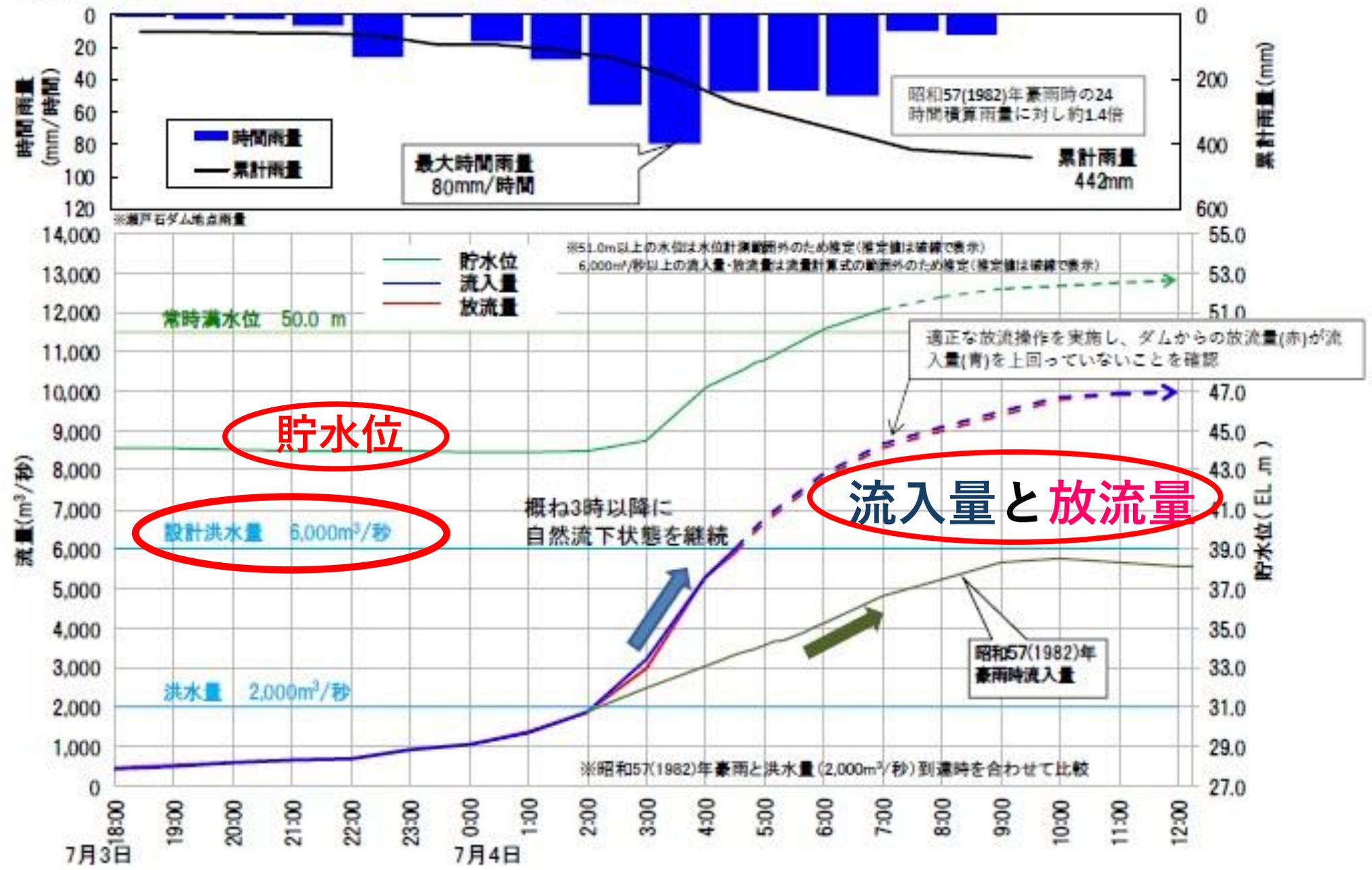
しかしなぜか貯水位は上昇し、ダムの上端を2 mもオーバーし、ダムの連絡橋が破損。

# 瀬戸石ダム 7月3日～4日 放流操作の状況

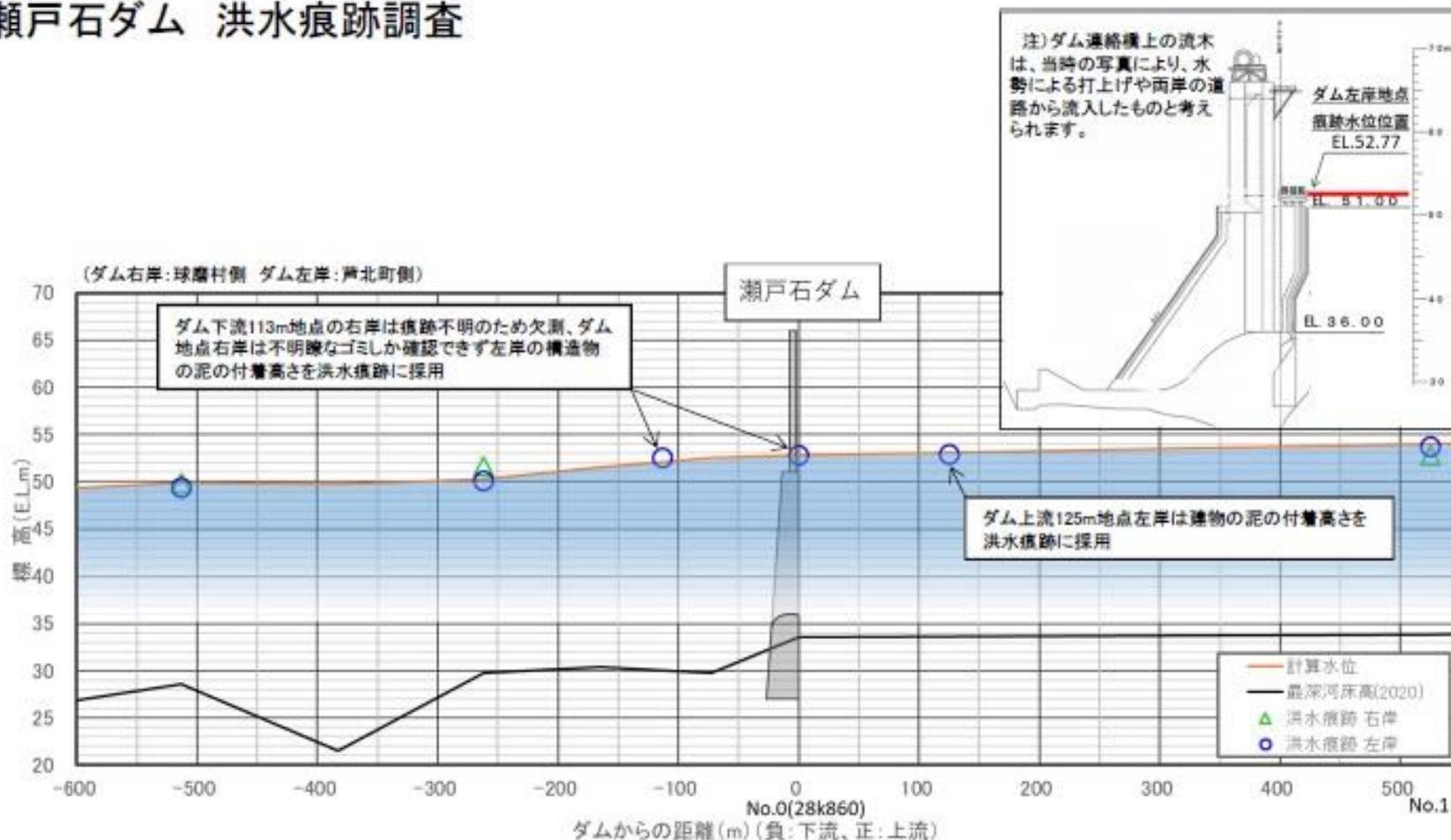


- ・昭和57(1982)年豪雨時流入量に比較し、大規模かつ急激な水の流入が見られます。
  - ・概ね3時以降は自然流下状態(水面より洪水吐ゲート下端が離れ、流入水をそのまま流下させる状態)となり、ダムからの放流量が流入量を上回っていないことを確認いたしました。【資料4左上写真参照】
  - ・ピーク流量は約10,000m³/秒、そのピーク時刻は上下流測水所(大野、横石)※データより11時から12時の間と考えられます。
- ※大野及び横石測水所のデータは令和2年7月豪雨検証委員会資料(九州地方整備局、熊本県)より推定

# 瀬戸石ダム 7月3日~4日 放流操作の状況



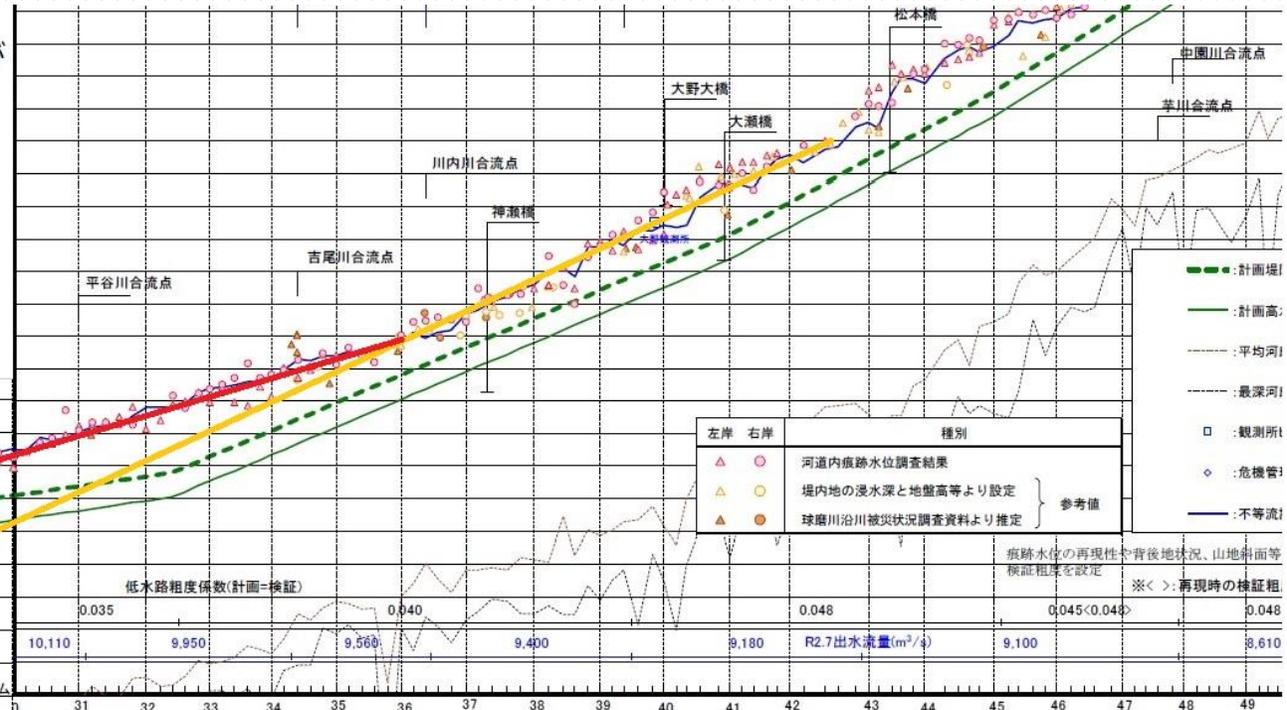
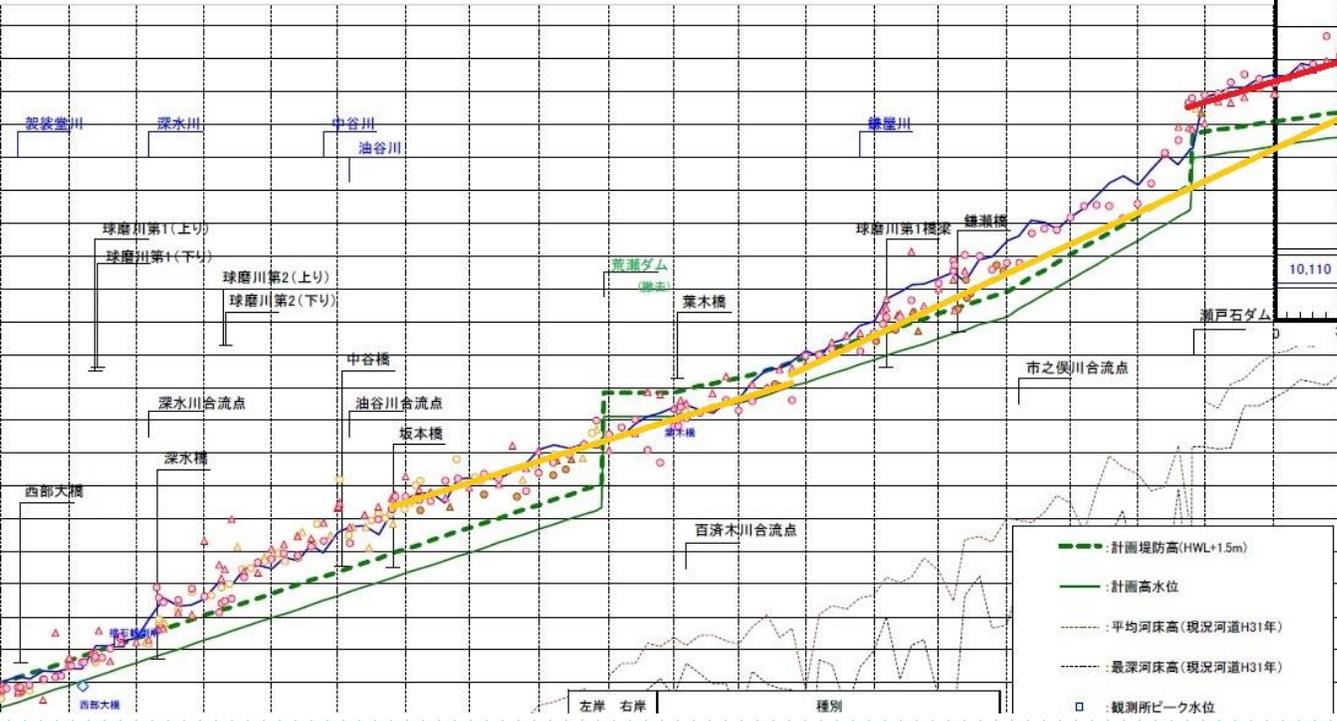
## 瀬戸石ダム 洪水痕跡調査



- ・ダム下流約300mの狭窄部からダム地点までに水位が徐々に上昇(約3m)したことを確認いたしました。
- ・ダム地点においても水位上昇は確認されましたが、ダムの影響により水位が大きく上昇した事実は認められませんでした。【資料4左下・右写真参照】

※洪水痕跡水位の測定法は、国土交通省河川砂防技術基準調査編(平成26年4月 国土交通省水管理国土保全局)に準じて実施しています。ダム近傍の洪水痕跡測定位置は、既往の河床測量の測線を基本としてダム下流513m、262m、113m、ダム地点、ダム上流525mの左右岸で実施し、ダム上流125mの左岸地点は建物浸水深を確認するために実施しています。計算水位は1次元不等流計算法により算定し、その結果は概ね洪水痕跡水位を再現出来ていることを確認いたしました。

1. 荒瀬ダム地点は、ダムが撤去されているため洪水痕跡は、ダムの上流・下流で段差が生じていない。
2. 瀬戸石ダム地点では、上流側が川内川の合流地点付近まで堰上げ現象が現れている。瀬戸石ダム付近では5 m程度水位がプラスとなっている。



3. 河床のレベルも、瀬戸石ダム付近から段差が付いて高く成っているように見えるが、凡例の枠で確認できない。

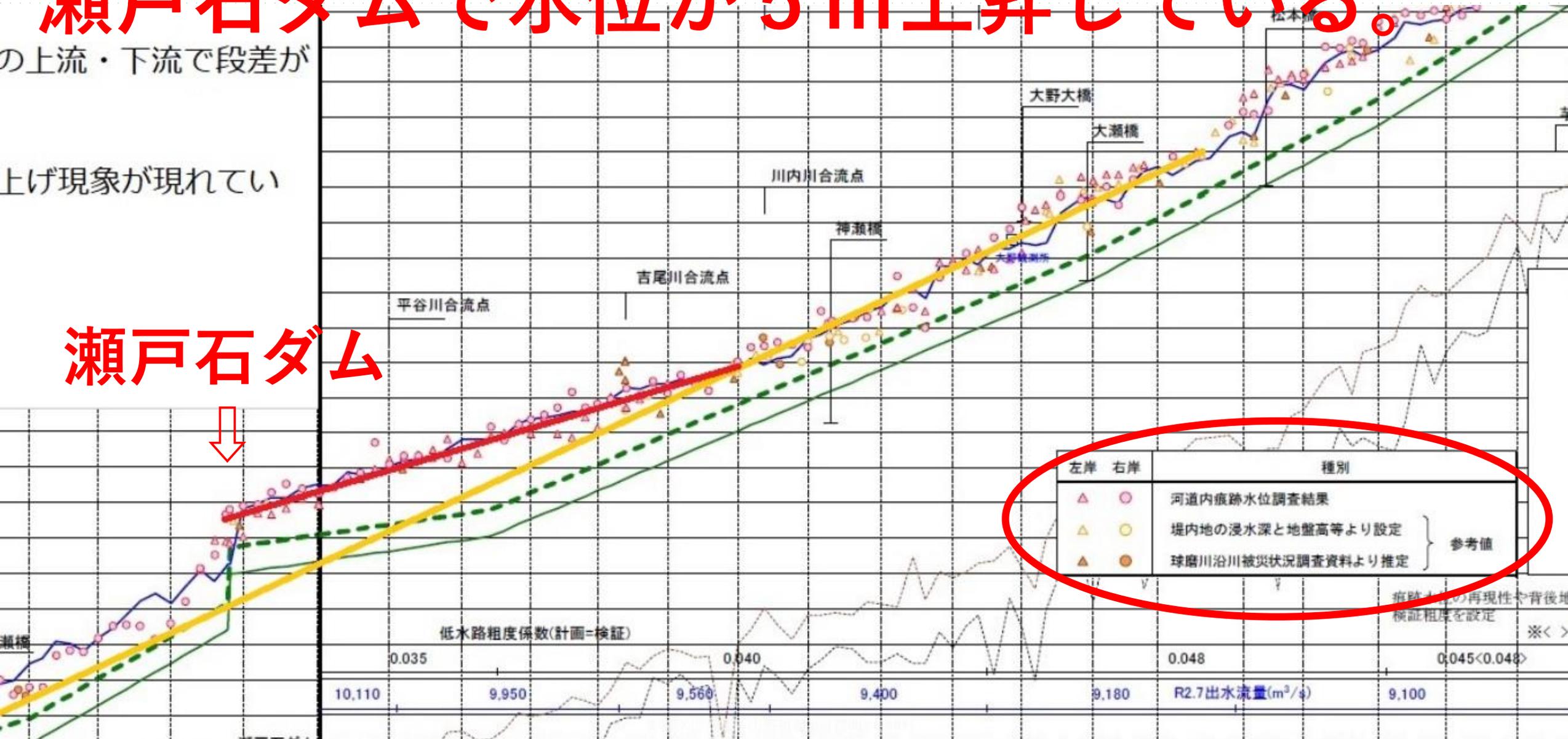
\* 国交省の参考資料「流量の推定について」の48pと49pをつなげた図です。

# 瀬戸石ダムで水位が5 m上昇している。

の上流・下流で段差が

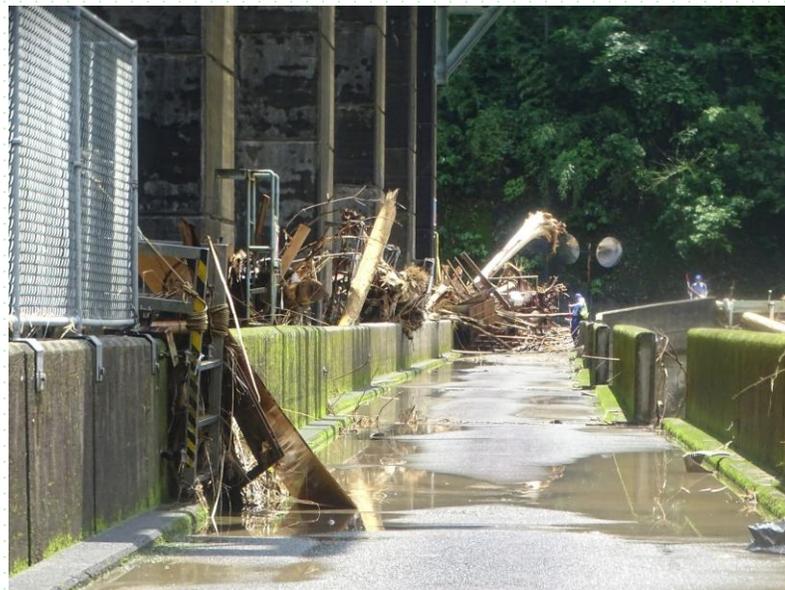
上げ現象が現れてい

瀬戸石ダム





村山義昭氏  
レポートより



つる詳子氏  
レポートより

ダムの放流量は2時頃から6時頃に  
掛けて、 $2,000\text{m}^3/\text{s}$ から $8,000\text{m}^3/\text{s}$   
へと急激に上昇。

その後も12時頃迄に $10,000\text{m}^3/\text{s}$   
まで上昇を続けた。

この急激なほ放流量の増加によって、瀬戸石  
ダム下流では壊滅的な被害となった。

### 3. どうして川辺川ダムの影響は渡 (球磨村) までで終わるのか。

神瀬地区や坂本町などでは輪中提や、宅地のかさ上げ工事が行われているが、その高さは7.4 水害の浸水高さよりも相当低い。川辺川ダムの水位低減効果分を差し引いた高さになっているのではないか。

ダムの効果は有る（水位・流量の変化）のに、影響はないと何故言えるのか。

# 4. 洪水時の堆砂、ゴミ滞留の問題 先行流水型ダム的事例



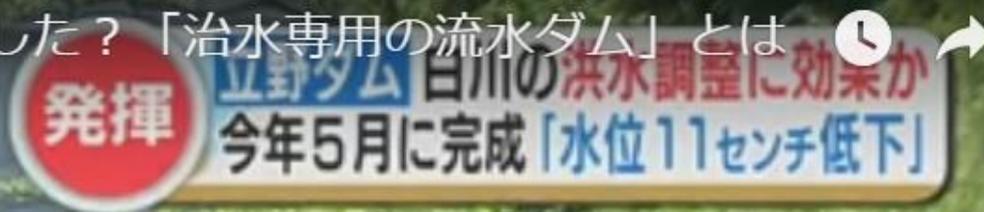
最上小国川ダム(2020年4月運用開始)



写真7 石ころや倒木などを覆ってダム湖底に沈殿した泥(左:河川水で洗われて残った泥、右:林の中の泥)

発行:「最上小国川の清流を守る会」 2022年4月25日  
チラシより抜粋

完成したばかりのダムが早くも大雨で増水した河川の水量を調節した？「治水専用の流水ダム」とは



## 2023.7洪水後の 立野ダムの様子

川床や取水口スクリーンに  
付着したゴミが見える

自然調節ということでは操作したわけではないが  
自然と(洪水)調節がされた

# 5. 環境影響評価レポートの説明会・意見募集の姑息。

○縦覧期間：令和5年11月28日（火）から令和5年12月28日（木）まで

○意見書提出期間：令和5年11月28日（火）から令和6年1月11日（木）まで

○準備レポート説明会：八代市（泉町）、人吉市、錦町、相良村、五木村、山江村、球磨村において

**住民に説明した振り**      **意見を聞いた振り**

## 準備レポート説明会の開催場所および開催日時

準備レポート説明会の開催会場および開催日時は、以下のとおりです。

市町村名	会場名	開催日時
五木村	五木村役場 2階大会議室	12月16日(土) 11:00~
相良村	相良村総合体育館 1階研修室	12月16日(土) 15:30~
球磨村	球磨村役場 談話室・小会議室	12月17日(日) 17:00~
八代市 (泉町)	振興センター五家荘 2階体育館	12月18日(月) 18:00~
錦町	錦町役場 3階大会議室	12月19日(火) 19:00~
山江村	山江村農村環境改善センター 2階大会議室	12月20日(水) 19:00~
人吉市	カルチャーパレス 小ホール	12月21日(木) 19:00~

※約1時間を予定しております。

● **八代市の会場は**市内から車で2時間かかる**五家荘が会場**

● **人吉市の会場では**質問者が大勢いたのに**説明会を打ち切り終了**

● **意見の募集は**年末年始の忙しい時期を挟み**1月11日で打ち切り**

ご清聴ありがとうございました。

山野 徹